

## 第4講 古代ギリシア人の移動に関する言説

暗黒時代という長いトンネルの両出口にある二つの文明。ミケーネ文明を中心とする鉄器時代以前の文明・文化とポリスを中心とする古典古代の文明。それぞれに異なる方法論と概念。一方は考古学に依存し、他方は文献学中心に行われる。さらに一方の文明は絶えずギリシアに流入してくる外部の集団によって新文化・新文明がもたらされてきたと考えられるのに、他方はギリシア人のオリジナルによって高い文明が築かれ、周辺の諸民族に影響を及ぼしたと考えられてきた。

(周藤芳之)

### 19～20 世紀前半のヨーロッパの状況の投影

経済力や生活水準などの違い

先進地域：イギリス・フランス・ドイツなど西欧諸国

非先進地域：イタリア・ギリシア・トルコなどの南欧諸国

### 宗教的背景

プロテスタント：近代的宗教・資本主義の発展を促進

カトリックや正教、イスラム：前近代的宗教・資本主義を阻害

### 古典期ギリシアの方言分布

#### 東方方言群

イオニア方言群（アッティカ方言）・アルカディア＝キプロス方言群・アイオリス方言群など

#### 西方方言群

ドーリス方言群・北西方言群（アイトリア方言・アカイア方言・フォーキス方言など）

#### 他（マケドニア方言）

方言集団の移動による伝播が考えられた

### ギリシアの神話や伝承

- ・イオニア方言がもっとも古い
  - ペロポネソス戦争時のアテネの老人たちのブローチ
    - 蟬の形をしたブローチ＝土地生え抜き
  - コドロス一族のイオニア入植の神話伝承
- ・ホメロスではトロイに遠征したギリシア人たちは「アカイア人」と呼ばれる
- ・ヘラクレス一族の帰還とドーリス人のペロポネソス移住の神話伝承
  - トロイ戦争 70 年後

### 移動する英雄たちの神話伝承

ペルセウス：アルゴスからセリポス島に母ともども流される・メドゥーサーの首・エチオピア王のケフェウスとカシオペアの娘アンドロメダ・アルゴスの王となる・ティリンス王のメガペンテスと領土交換

イアソン：テッサリア出身・ケイロンに育てられる・コルキスの金の羊の毛皮（レムノス・キオス・ボスポロス海峡）・メデア・イオルコス・コリントス・放浪

ヘラクレス：ミケーネの生まれ・12の冒険（ネメアのライオン・レルナのヒュドラ・ケリュネイアの鹿・エリュマントスの猪・エーリスの牛小屋・ステュンパロスの鳥・クレタの雄牛・トラキアの人喰い馬・アマゾンの女王の帯・大西洋のエリュテイア島の牛・世界の西の果てヘスペリデスの金のリンゴ（コーカサスのプロメテウスの助言・ジブラルタル）・地獄の番犬ケルベロス  
アルゴ船の遠征に参加

カドモス：フェニキアの王子・エウロペの探索・ロドス・テラ・トラキア・デルフォイ・フォキス・テーバイの建設・ハルモニアと結婚・エンケレイスに亡命

アトレウス：ピサの出身・アガ멤ノンの父・ピサからミケーネへ・弟テュエステス追放・呪いの飢饉・シキュオンからテュエステスの子アイギストスを連れ帰る・アイギストスに殺される

テセウス：トロイゼン・アテナイ・アマゾン・地獄・スキュロス

方言群集団の移動による方言の拡散を想定

言説の存在

政治的な支配、民族的な優越などを意識的或いは無意識的に肯定する教義

- (1) 新しい文化の創造源はアルプスの北
- (2) アルプスの南、ギリシア正教やカトリックの地に新しい文化を創造する能力があるはずがなく、これらの地の住民は常に外部から侵入してきた北方の移住民によって征服され、彼らによってもたらされる新文化を受け入れるだけである。
- (3) 印欧語族の居住地はヨーロッパ以外の地、ウクライナや南ロシアの草原地帯にあり、そこで分化して各地に拡散していった。
- (4) 北欧にこそ若くて荒々しく創造力に満ちた蛮族（遊牧民）が居り、道徳的に退廃し肉体的に脆弱な南方の住民を征服し、文化の刷新と道徳の再建に寄与してきた。
- (5) 古代末期のゲルマン民族の大移動のイメージで語られる。

ドイツやイギリス、フランスなどの西欧諸国による南欧、オスマントルコ支配下の東欧支配の言説の背景を構成してきた。

古典学説の形成：バルカン半島の北部或いはウクライナの草原地帯にいたギリシア語の母

集団から方言分化した集団が、幾つかの異なった時代にバルカン半島を南下し、南のギリシアの地に侵入して現地住民を征服し、自分たちの文化と言葉をギリシアにもたらした。

パウル・クレッチマー (P. Kretschmer) の説 : 'Die vorgriechischen Sprach- und Volksschichten', *Glotta* 28 (1940), 231-78; *Glotta* 30 (1942), 84-218.

ギリシア語が本来持たない語尾 (-nthos や -ssos) を持つ地名、人物名の存在に着目。

コリントスやクノッソスなどの地名。ヒュアキントスやナルキッソス (何れもギリシア人が持ち込んできた神々の従者で、死んだ神) などの古い神々の名前。

ギリシア人がギリシアの地にやってくる前には -nthos や -ssos の語尾を名詞に持つ先住民がいた。彼らはその後やってきたギリシア人に征服され、同化する中で民族としてのまとまりを失ってしまったが、地名などにその痕跡を残した。

前 2000 年頃 : イオニア方言を話す人々が移住 > ミニューアス式土器に代表される中期青銅器文化をもたらす。

前 1600 年頃 : アカイア方言を話す人々が移住 > ミケーネ文明をもたらす。

前 1200 年頃 : ドーリス方言を話す人々が移住 > ミケーネ文明の破壊と鉄器並びに火葬文化をもたらす。

イオニア人の逃避 : メッセニアのピュロスからアッティカへ、アッティカから小アジアの沿岸へ。

アカイア方言を話す人々の逃避 : ペロポネソス各地からアルカディアへ、或いはペロポネソス北部のアカイア地方へと逃避。 > この頃からアルカディアやアカイアにミケーネ式の土器が出現。

アルカディアからキプロスへ一部の人々の移住 > アルカディア方言とキプロス方言の近似。

古典期の方言群の分布とその当時知られていた考古学的事実との整合性から、定説化する。